

# ペットOKの ネットで支援運動

## 仮設増やそう

東日本大震災の被災地で避難者がペットと暮らせる仮設住宅を増やそうと、西宮市の公益社団法人が「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」と題した募金・署名活動を始めた。環境省の調べでは岩手、宮城、福島3県でペットが入居可能な仮設住宅は半数にとどまっているといい、同法人は、「家や仕事を失った被災者が、心の支えままで奪われないように支援したい」としている。

### 西宮の公益社団法人

活動するのはシンポジウムなどを通じ、人と動物との共生を目指す公益社団法人「Knots(ノッツ)」で、理事長の富永佳与子さん(49)がニュースで、夫を失った後、小型犬と暮らす避難所のお年寄りが「犬の鳴き声がうるさい」と疎まれ、狭いロッカー室で過ごしているのを見たのがきっかけ。「この犬しか残っていない」と嘆くお年寄りの

姿に、「周囲への配慮は必要だが、避難者の心の支えを奪ってはいけない」と思ったという。

富永さんは「ペット入居不可」とする自治体に署名を持ち込もうと、5月からインターネット上で署名活動をスタート。数が集まった段階で、被災自治体に届け、ペットと暮らす避難者和其他の住民が住み分けられる工夫を求める。同時に募金活動も実施しており、ペット可のマンションの家賃補助などに使う考えという。

富永さんは、「たとえ非常時でも避難者には、少しの工夫でしかない我慢がある。ペットの飼い主以外にも、障害者や幼い子どもを持つ母親など配慮が必要な人を守る取り組みにつながるべし」と話している。

募金、署名はノッツのHP (<http://www.knots.or.jp>)で受け付けている。

ペットと暮らす被災者を支援する活動を始めたノッツの富永さん(右、西宮市川西町で)

